



みさきっちょ

作家いしいしんじが7年の月日を過ごした、神奈川県・三崎。もう戻ることはない愛おしい人たちとの日々を、渾身の力で描ききりました。三崎で生まれた物語『ポーの話』、『港、モンテビデオ』など、著者の原点を辿ることができる必見の一冊です。三崎を知らない人でもきっと、涙が溢れる……、いしいしんじがずっとずっと大切にしてきた、宝物が詰まっています。

地方紙に続々掲載中！

共同通信「記者のおすすめ」掲載

手に取った感触が妙に懐かしい。そう、これは小学校の図書室で読んだ、「はれときどきぶた」といった児童書の手触り。思えば、表紙の絵もそんな風合いだ。ページをめくると、中身は児童文学ではない。舞台は、三浦半島の最南端にある町、三崎。かつてマグロの遠洋漁業で栄えた港町に、小説家がふらっと現れ、住み着く。話はやがて、この土地で生まれた著者の作品にも及ぶ。例えば、どこか童話的な世界が印象的な「ポーの話」、そして三崎の実際の人々が物語に流れ込んだ「港、モンテビデオ」。一つの世界を丸ごと創造するような著者の小説の、源流に触れることができる。(略)

いしいしんじからのメッセージ

神奈川県、三浦半島突端の港町、三崎。十八年前のある日、何の気なしに訪れた僕は、縁も土地勘も知り合いもないのに、翌週、いきなりこの町に、一軒家を借りて住みはじめます。名物の魚屋さんに「ぼっかじゃねえのか？」と笑いとばされながら。魚を食べ、読み、書き、飲みする日々のなかで、子ども、老人、スナックのおかみさんら、ひとりずつ知り合いが増えていきます。祭の練習をし、おみこしをかつぎ、町の顔役に「おめえ、関西弁だけど、ずっとここにいていいよ」とお墨付きをもらいます。縁がない、とは勘違い。引きよせられてきた時点で、縁はもう、三崎からいただいていた。この港で暮らすことで、ひよろひよろの枯れ草だった僕に、ささやかな幹が生まれ、枝が伸び、果実がなりました。三崎は命の恩人です。田舎暮らし、ではない。人間と人間がつながりあうほんとうの暮らし。本のなかの三崎「みさきっちょ」に、しばし移り住んでみませんか。



F
A
X **03-3294-2177**

アタシ社の本は全ての取次【日販・トーハン・日教販・大阪屋栗田など】より仕入れが可能です。JFCが一括してまとめて管理し、仕入れ・発送を代行します。返本もいつもお使いの取次にお返しください。

書店番線印	ご注文数	合同会社アタシ社	文芸／暮らし／エッセイ	返品条件付き注文扱い
		みさきっちょ 文：いしいしんじ 絵：長谷川義史 A5 変形判 / 194P 定価 1400+ 税 ISBN978-4-909713-04-9 C0195		
ご担当	様	アタシ社 担当／ミネシゴ、三根かよこ ホームページ： http://www.atashisya.com/ 〒238-0233 神奈川県三浦市向ヶ崎町 1-1 緊急 TEL:09072137104		